

2018年10月29日

公益財団法人持田記念医学薬学振興財団

2018年度持田記念学術賞並びに研究助成等について

公益財団法人持田記念医学薬学振興財団（理事長：持田直幸、以下「当財団」）は2018年度の持田記念学術賞受賞者、並びに研究助成金及び留学補助金交付対象者を決定しましたのでお知らせいたします。

今年度の持田記念学術賞には15名の研究者が推薦され、その中から京都大学の斎藤通紀博士と東京大学の村田茂穂博士を選出しました（褒賞金：1000万円/件）。研究助成及び留学補助には752件の申請があり、研究助成金交付対象者96名（300万円/件）、留学補助金交付対象者20名（50万円/件）を選出しました。

持田記念学術賞、並びに研究助成金及び留学補助金の贈呈式を2018年11月8日(木)15時よりステーションコンファレンス東京（東京都千代田区）において行います。今年度は研究者招聘助成金交付対象14学会（50万円/件）を含めて研究助成金等として総額3億2500万円を贈呈します。

研究領域		研究助成	留学補助	学術賞	招聘助成
領域1	バイオ技術を基盤とする先端医療に関する研究	11件	3件	2件	14件
領域2	バイオ技術を基盤とするゲノム機能/病態解析に関する研究	18件	4件		
領域3	免疫/アレルギー/炎症の治療ならびに制御に関する研究	17件	4件		
領域4	循環器/血液疾患の病態解析/治療制御に関する研究	16件	6件		
領域5	創薬・創剤の基盤に関する研究	20件	2件		
領域6	創薬とその臨床応用に関する研究	14件	1件		
合計		96件	20件	2件	14件

当財団は、1983年の設立以来、研究助成2113件（計39億599万円）、留学補助511件（計2億5550万円）、持田記念学術賞70件（計3億5200万円）、研究者招聘助成258件（計1億2900万円）の総額46億4249万円の助成並びに贈呈を行っております。当財団は、今後も多くの研究者へ研究支援を行い、医学・薬学の振興に貢献してまいります。

以上

<本件に関する問い合わせ先>

公益財団法人持田記念医学薬学振興財団

zaidan@mochida.co.jp

2018年度持田記念学術賞受賞者



齋藤 通紀（さいとう みちのり）博士

京都大学大学院 医学研究科 教授

受賞研究テーマ

「生殖細胞の発生機構の解明とその試験管内再構成」

齋藤博士は、単一細胞発現遺伝子解析法を応用・発展させ、マウス始原生殖細胞に発現する遺伝子群を次々に同定、その機能や発現制御機構を解明して、生殖細胞の形成原理を明らかにした。また、その遺伝子発現の全容やエピゲノムプログラミングの動態を解明した。

次に、これらの成果に基づき、マウス ES 細胞や iPS 細胞などの多能性幹細胞から始原生殖細胞様細胞を誘導し、それらから精子・卵子・健全な産仔を作製することに成功した。

さらに、ヒトへの展開を目指して、ヒト iPS 細胞からヒト始原生殖細胞様細胞の誘導に成功するとともに、鍵となるカニクイザル初期発生・生殖細胞発生機構を解明し、霊長類を用いた発生生物学の礎を築いた。

齋藤博士の研究は、マウス・サル・ヒトの生殖細胞の発生機構を明らかにするのみならず、不妊やエピゲノム異常症、遺伝病発症の原因究明、それに基づく治療法の開発などに結びつくことが期待され、世界を先導する先見的・独創的な研究業績である。

- 主な略歴
- | | |
|------------|--|
| 1970年6月2日生 | |
| 1995年3月 | 京都大学 医学部 卒業 |
| 1996年4月 | 日本学術振興会 特別研究員 DCI |
| 1999年3月 | 京都大学大学院 医学研究科 博士課程修了 |
| 1999年4月 | 日本学術振興会 特別研究員 PD |
| 2000年1月 | Gurdon Institute, Travelling Research Fellow |
| 2003年1月 | Gurdon Institute, Senior Research Associate |
| 2003年4月 | 理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター チームリーダー |
| 2009年4月 | 京都大学大学院 医学研究科 教授 |
| 2011年8月 | 科学技術振興機構 ERATO 研究総括 兼任 |

- 主な受賞歴
- | | |
|-------|------------|
| 2014年 | 日本学術振興会賞 |
| 2014年 | 日本学士院学術奨励賞 |
| 2016年 | 武田医学賞 |

2018年度持田記念学術賞受賞者



村田 茂穂 (むらた しげお) 博士

東京大学大学院 薬学系研究科 教授

受賞研究テーマ

「プロテアソームの分子多様性と生理機能の解明」

村田博士は生化学的、分子生物学的手法を用い、細胞内で不要となったタンパク質を分解する装置であるプロテアソーム分子集合の機能分化とその構造に関与する種々の新規分子を次々に発見し、遺伝子改変動物の作製とその分析から、プロテアソーム形成の分子機構の全容解明に成功した。

さらに、胸腺に特異的に発現する新規の「胸腺プロテアソーム」を発見し、細胞性免疫応答におけるキラーT細胞の膨大なレパトア形成は自己と非自己の識別機構の核心であり、キラーT細胞の正の選択に必須の役割を果たすことを明らかにし、免疫系が自己と非自己を識別する分子機構を世界で初めて実証した。

これらの業績は、プロテアソームを標的とした癌や免疫関連疾患、神経疾患をはじめとする難治性疾患の病態解明や、創薬や新規治療法開発などにも道をひらくものと期待される、世界に誇る先見的・独創的な研究業績である。

- 主な略歴
- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1969年 11月 14日 | 生 |
| 1994年 3月 | 東京大学 医学部 卒業 |
| 1995年 6月 | 社会保険中央総合病院 内科医師 |
| 2000年 3月 | 東京大学大学院 医学系研究科 博士課程修了 |
| 2000年 4月 | 科学技術振興事業団戦略的基礎研究 研究員 |
| 2001年 11月 | 東京都臨床医学総合研究所 研究員 |
| 2003年 11月 | 科学技術振興機構 さきがけ研究員 |
| 2005年 12月 | 東京都臨床医学総合研究所 主席研究員 |
| 2007年 12月 | 東京大学大学院 薬学系研究科 教授 |

- 主な受賞歴
- | | |
|-------|-----------|
| 2007年 | 日本生化学会奨励賞 |
| 2009年 | 日本学術振興会賞 |